

短 報

宍道湖産ボラに寄生していたヒダビル*

長澤和也・中野浩史

Limnotrachelobdella okae (Hirudinida: Piscicolidae)
parasitic on a flathead grey mullet (*Mugil cephalus*)
in Lake Shinji, Shimane Prefecture, Japan

Kazuya NAGASAWA and Hiroshi NAKANO

Abstract *Limnotrachelobdella okae* (Moore, 1924) is a skin parasite of coastal marine and brackish-water fishes in Far East Asia. A specimen of *L. okae* was found on the head of a flathead grey mullet (*Mugil cephalus*) in brackish-water Lake Shinji, Shimane Prefecture, Japan, in March 2012. This represents the fourth record of *L. okae* from *M. cephalus* in Japan.

ヒダビル *Limnotrachelobdella okae* (Moore, 1924) はウオビル科に属し、極東アジア沿岸の海水魚や汽水魚に寄生する (長澤ほか, 2008). 本種は、島根県内では宍道湖と中海から報告があり、ウグイ *Tribolodon hakonensis*、フナ属魚類の 1 種 *Carassius* sp., ギンブナ *Carassius* sp. における寄生例に加えて (長澤ほか, 2015), 魚類から離れた状態で見出されたことがある (Yamauchi *et al.*, 2008; 長澤・中野, 2013). 今回、筆者らは宍道湖産ボラ *Mugil cephalus* 1 尾にヒダビルの寄生を認め採集したので報告する.

ヒダビルの寄生を受けていたボラは 2012 年 3 月 29 日に松江市西浜佐陀町の宍道湖沿岸に設置された定置網で漁獲された. ヒダビルは、ボラ (全長約 170 mm) の頭部背面に尾吸盤を用いて寄生していた (図 1A). このヒダビルを採取すると、寄生部位には出血が見られた (図 1B). ヒダビルの生時の体色は濃緑色で、80% エタノール液中では薄白色であった. 同液に保存されたヒダビルの全長 (両吸盤を含む) は 39 mm, 最大体幅は 6 mm であった.

ボラにおけるヒダビルの寄生は三重県での 2 例と岡山県での 1 例に続く 4 例目である (長澤ほか, 2013). 宍道湖と中海では、ヒダビルは上記の

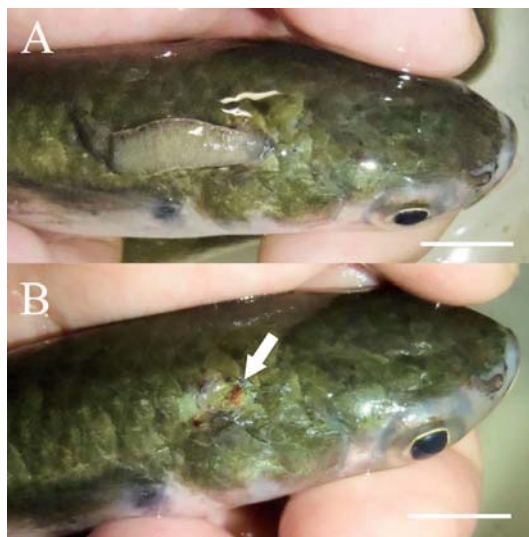


図 1 宍道湖産ボラに寄生するヒダビル (A) とヒダビル摘出後の出血痕 (B, 矢印). スケールは 10 mm.
Fig. 1. *Limnotrachelobdella okae* infecting on the head of a flathead grey mullet (*Mugil cephalus*) caught in Lake Shinji, Shimane Prefecture, Japan (A) and a hemorrhagic scar caused by the leech (B, arrow). Scale bars: 10 mm.

ようにコイ科魚類にも寄生することから、多くの魚種を宿主として利用している可能性がある.

今回採集されたヒダビル標本はホシザキ野生生物研究所で保管されている.

謝辞: 本研究はホシザキグリーン財団から支援を受けて行われた. 記して感謝する.

[文献]

長澤和也・中野浩史 (2013) ホシザキグリーン財団研究報告, (16): 262.

長澤和也・泉川晃一・池竹弘旭 (2013) 生物圏科学, **52**: 65-70.

長澤和也・中野浩史・林 成多 (2015) ホシザキグリーン財団研究報告, (18): 66.

長澤和也・山内健生・海野徹也 (2008) 日本生物地理学会会報, **63**: 151-171.

Yamauchi, T., T. Ito, K. Yamaguchi and K. Nagasawa (2008) *Laguna*, **15**: 19-23.

(長澤: 広島大学大学院生物圏科学研究科)

(中野: ホシザキグリーン財団)

*ホシザキグリーン財団委託業績 第 119 号